

羽柴秀吉の戦い		竹中半兵衛の戦い	
天 正 5 年	10・23	羽柴秀吉（41歳）、毛利氏攻めに、播磨国へ向け出京<兼見卿記	この頃、竹中半兵衛（34歳）、兵糧米を代銀倍額で、急ぎ集め、秀吉の憂いを払うという<武功雑記 この秋、姫路城主黒田孝高（32歳）、子松寿（10歳）を織田信長（44歳）へ人質に出す。松寿は秀吉の近江長浜城預け<黒田家譜 半兵衛・黒田孝高、先陣し、敵兵多数討ち取る<下村文書
	10・28	秀吉、播磨の国人衆より人質を集める<信長公記	
	11・27	秀吉、毛利方の福原城（佐用郡佐用町）を攻め落とす<下村文書	
	12・3	秀吉、備前・美作国境に近い毛利方の上月城（佐用町）を奪取、尼子勝久・山中鹿之助幸盛を守将に残しておく<下村文書	
	12・5	秀吉、龍野城（龍野市）に打ち入る<下村文書	
	12・10	織田信長、安土より三河国吉良へ鷹狩り。近日訪れる秀吉に、播磨・但馬攻略の褒美として乙御前釜を残しておく<信長公記	
天 正 6 年	1・1	秀吉、安土にて信長の茶会に列す（招かれた者12人）<信長公記	これより後、半兵衛、書写山円教寺の仏像を自領美濃国岩手の明泉寺・祥光寺に持ち帰るといふ<新修垂井町史通史編 これより後、半兵衛、三木城近くに伏兵を置いた黒田孝高の策を推量し、連携、三木勢をうつく黒田家譜
	2・23	秀吉、再び播磨入り。加古川城（加古川市）に軍勢を入れる<信長公記	
	3・6	秀吉、書写山円教寺（姫路市）に布陣<円教寺文書	
	3・8	本願寺頭如（36歳）、雑賀御坊にたいし、三木（別所長治）・高砂・明石の国人衆はみな本願寺の味方（反織田）であることを申す<鷲森別院文書 ※平定したはずの播磨、水面下の情勢	
	3・19	足利義昭（42歳）、毛利の吉川元春に、三木城主別所長治（21歳）を味方にした由を告げ、播磨出陣を要請す<吉川家文書	
	3・22	信長、黒田孝高に別所長治成敗を命ず<黒田文書	
	3・23	秀吉、八幡山（赤穂市）・奈波表（相生市）に出陣し、所々を焼き払う<黒田文書	
	3・29	三木開戦。 秀吉、別所長治の三木城に押し寄せる<黒田家譜	
	4・12	秀吉、三木方の野口城（加古川市）を攻め落とす<清水寺文書	
	4・18	吉川元春（49歳）・小早川隆景（46歳）・宇喜多の毛利軍、大亀山に陣し上月城を包囲。兵3万<吉川家文書、信長公記	
	4・24	信長、織田信忠ら一門に播磨出陣を命令<金子文書	
	4・29	滝川一益・明智光秀・丹羽長秀、播磨出陣<信長公記	
	5・1	織田信忠（22歳）・信雄（21歳）・信包・信孝（21歳）、尾張・美濃・伊勢3ヶ国の兵を率い播磨出陣<信長公記	
	5・4	秀吉、荒木村重（44歳）と高倉山に陣し、上月城攻撃の毛利軍と対峙。兵1万<吉川家文書、信長公記	
	5・6	信忠勢、大久保（明石市）に陣取る。先陣は三木方の神吉城（加古川市）・志方城（加古川市）・高砂城（高砂市）をにらみ加古川に野陣す<信長公記	

5・24		半兵衛、安土へ赴き、信長に戦況報告。備前八幡山城主を味方につけた功に、秀吉黄金 100 枚、半兵衛銀子 100 両を賜わる<信長公記
6・16	秀吉、上月城戦線より入京し信長の指示を仰ぐ。信長、劣勢の上月城を放棄する事、ついで神吉・志方を落城させて後の、三木城攻めを命ず<信長公記	
6・24	秀吉・荒木村重ら織田勢、高倉山より撤退<吉川家文書 秀吉、書写山にはいる。ついで信忠の指揮下、神吉城攻めに従軍するが、すぐ但馬へ移動<信長公記	
7・5	上月城落城<念誓寺文書	
7・16	この頃、秀吉、牢人衆が構える山口（朝来市）の要害を攻撃。竹田城・生野銀山間の往来を確保す<新免文書	
7・20	神吉城、この日落城<多聞院日記 織田信忠、神吉城を攻略した後、志方城を落城させる。次に三木城攻略に取りかかる<信長公記	
7・27	足利義昭、吉川元春に織田信忠の三木在陣を報ず<吉川家文書	
8・16	信忠、三木城堅固の故、四方に付城を構えてこれらを秀吉に渡し、この日、播磨より帰る<黒田家譜 （参考）8月末、 信忠、平井山(三木城本丸の東北東約2.8km)の秀吉陣ほか多数の付城を築いて秀吉に渡し、播磨より帰る <豊鑑	この頃カ、 半兵衛、「平井村・中村間ノ山」に陣す という<播磨鑑
8・23	書写山円教寺衆徒、帰山還住す<円教寺文書 ※これ以前、秀吉、平井山に本陣を移しおえたか	
10・15	秀吉、平井山で茶会を催す <津田宗及茶湯日記	
10・17	荒木村重、足利義昭・毛利氏・本願寺顕如と通じて、信長に背く。この日、顕如、村重と盟約す<古文書集 ※摂津国を支配する村重の寝返り。播磨の秀吉は腹背に敵をうける	
10・22	平井山合戦。別所治定(長治弟)、秀吉の本陣平井山を攻め、羽柴秀長の家士樋口彦助政武に討たれる <「伯耆志」所収樋口文書	
10月下旬		黒田孝高、荒木村重の説得に有岡城（伊丹市）へ赴くも、城内に投獄される<黒田家譜
11・3	この日、信長、入京す。ついで秀吉・明智光秀・松井友閑を村重の慰諭に有岡城へ遣わすが、村重応じず<信長公記	
11・9	信長、諸将を率い村重討伐に摂津出陣<信長公記	この頃、信長、黒田孝高の不帰を寝返りと誤解し、子松寿の誅殺を命じるが、半兵衛、命令を矯め、信長を偽り、松寿を自領美濃国岩手に保護す<黒田家譜
11・10	秀吉、村重方の高槻城（高槻市）攻略のため、郡山（茨木市）に陣す<黒田家譜 ついで秀吉、佐久間信盛・松井友閑らと宣教師オルガンチノに同道し、高山右近友	

	12・11	<p>祥の高槻城にはいる。オルガンチノ、キリシタン城主右近を誘降し、16日、右近、郡山の信長陣に伺候する<信長公記</p> <p>信長、有岡城戦線より秀吉を播磨にかえす。佐久間・明智光秀・筒井順慶をも播磨へ派遣し村重方の三田城（三田市）に対して防備せしめ、また三木包囲の付城群に兵糧・鉄砲・玉薬の補給、普請をさせる<信長公記</p>	
天 正 7 年	2・23	信長、三木方の和平交渉を拒否。この日、秀吉、仲介した赤松則房の奉公人に宛て、これを報ず<大阪城天守閣収蔵文書	
	4・8	織田氏越前衆（北陸方面軍）、有岡城戦線から播磨へ出陣<信長公記	
	4・12	織田信忠・信雄・信包・信孝、有岡城戦線から三木に出陣。新しく普請する付城の検使2名も派遣される<信長公記	
	4・26	信忠、三木に6ヶ所の付城構築を命じ、ついで御着城（姫路市）を攻める<信長公記	
	4・28	信忠、村重方の有馬郡・野瀬郡を攻撃<信長公記	
	4・29	信忠、信長本陣古池田（池田市）へ帰り、播磨の戦況を報告す。信長、信忠の岐阜帰国を許し、ついで三木方の淡河城（神戸市）に付城を築いた越前衆の帰国を許す。<信長公記	
	5・25	秀吉勢、三木方の丹生山砦（神戸市）を攻め落とす<信長公記	
	5・26	淡河定範、淡河城より退去<信長公記	
		※毛利より海路一花熊城（神戸市）一丹生山一淡河城一三木城。左記の兵糧搬入路が遮断されたので、毛利氏、新しく魚住（明石市）一三木城ルートを策定するが、秀吉、これも遮断せんと付城を五六十ばかり築き、その間に番屋・堀・柵・乱杭・逆茂木を設け警戒す（6月～9月大村合戦までの情勢）<播州御征伐之事	
	6・13		
	9・4	秀吉、安土に参上。備前岡山城主宇喜多直家（51歳）の降伏に、赦免を願い出るも、信長、秀吉の独断外交を怒り、直ちに播磨へ追い返す<信長公記	
	9・10	大村合戦。未明に毛利勢・雑賀衆・播州勢、連合して三木城へ兵糧搬入を企てる。平井山から秀吉、三木城から別所勢出撃し、平田・大村・加佐で激戦。<信長公記	
	10・7	秀吉、付城を東は大塚、西は平田、南は八幡山、北は長屋にまで近寄せる。5～6町（約550m～約650m）の距離で、三木城を昼夜なく完全封鎖<播州御征伐之事	
	10・7	この日付の水野守隆書状に、信長が宇喜多直家の降参を許したことが見える<淡輪文書	
10・30	秀吉、古屋野（伊丹市）に上り、織田信忠へ宇喜多基家を取り次ぐ。基家、直家の名代として、赦免を御礼す<信長公記		
11・19	※宇喜多の寝返りで、織田・毛利の境目は備前を超え、一気に備中高梁川まで動く 有岡城開城<多聞院日記	<p>竹中半兵衛、平井山に病没す<黒田家譜</p> <p>有岡陥落の時、黒田孝高、城内の牢獄から救出される。</p>	

		その後、信長、黒田孝高の忠節をきき、子松寿を殺さしめた事を悔いるも、竹中半兵衛の深慮が松寿を救っていた真相をしり、半兵衛に深く感悦すく黒田家譜
天正8年	<p>1・6 秀吉、宮山之城（三木城本丸の南約 640m）を奪うく反町文書、三木城跡及び付城跡群総合調査報告書</p> <p>1・8 秀吉勢、魚住城を攻め落とし、毛利・雑賀衆を討ち取るく反町文書</p> <p>1・10 毛利方の志方城勢・御着城勢、城を開けて退去。付近で秀吉勢と戦闘く反町文書</p> <p>1・11 秀吉、鷲山構（三木城本丸の南約 370m）・鷹之尾城（本丸南約 640m）・新城（本丸東約 150m）を奪取く反町文書、三木城跡及び付城跡群総合調査報告書</p> <p>1・15 別所長治、秀吉方からの降伏勧告を受け、開城を決意し、長治・弟友之・叔父賀相ら3人の切腹で籠城諸卒の助命を嘆願す。秀吉、助命を約すく信長公記</p> <p>1・17 三木開城、別所長治一族は自刃く別所長治記</p> <p>3・10 秀吉、軍兵休息のため近江国北郡へ帰陣く利生護国寺文書</p> <p>3・27 秀吉、美作国西部侵攻の毛利軍に対し出陣、この日、京に至るく利生護国寺文書</p> <p>閏3・2 秀吉、三木に着陣し、先勢に備前国境まで陣取りを申し付けるく利生護国寺文書</p> <p>閏3・17 秀吉、出撃し、備前・美作・播磨3ヶ国の国境付近ところどころに陣を据えさせる。ついで宇喜多勢を美作の毛利勢に対処せしめ、自軍は備中の毛利勢に切り入る。く利生護国寺文書</p> <p>閏3・27 毛利勢撤退。秀吉、播磨に引き返し、英賀城（姫路市）を攻囲すく利生護国寺文書</p> <p>4・24 秀吉、長水城（宍粟市）を攻めるく信長公記 秀吉、英賀城を攻め落とすく安積文書</p> <p>5・10 秀吉、長水城を攻め落とすく利生護国寺文書</p> <p>※秀吉、播磨国平定を完了</p> <p>この年</p>	<p>松寿（13歳）、姫路に帰るく重要文化財「黒田長政像」賛</p> <p>※松寿はのちの黒田長政</p>

人物年齢は「国史大辞典」（別所長治のみ「別所長治記」）による。誕生年を1歳とする